

日本天文学会 1992 年度春季年会記事

1992 年春季年会は、今回、3 会場併行で開催することとし、5 月 13 日（水）から 15 日（金）の 3 日間、吹田市の大阪学院大学で行われた。

講演数は口頭によるもの 398、ポスターによるもの 29 で、Post-deadline papers は 3 件採用されポスター発表を行った。年会参加者は 585 名に及んだ。

会場に使わせていただいた大阪学院大学 5 号館は、しょうしゃな造りで、ホテルを想わせる広々としたロビー・廊下そして空調の効いた爽やかな環境をわれわれに提供してくれた。また手頃な教室を 3 会場・3 日間専有させていただいたが、そのために授業をいろいろ遣り繰りしていただいたり、会場の模様替えを一手に引き受けて働いていただいた大学側の教官・職員および管理会社の方々に大変感謝している次第である。

口頭による研究発表の座長は次の方々をお願いした。

A 会場（地下 2 階演習室 1）

5 月 13 日	午前	佐々木 節 (A 1~14)
	午後	佐藤勝彦 (A 15~30)
		稲垣省五 (A 31~43)
14 日	午前	小山勝二 (A 44~64)
	午後	松岡 勝 (A 65~85)
15 日	午前	岡本 功 (A 86~107)
	午後	尾崎洋二 (A 108~121)
		竹内 峯 (A 122~135)

B 会場（地下 2 階演習室 2）

5 月 13 日	午前	宮本重徳 (B 1~14)
	午後	海部宣男 (B 15~30)
		唐牛 宏 (B 31~46)
5 月 14 日	午前	石黒正人 (B 47~67)
	午後	大師堂経明 (B 68~87)
5 月 15 日	午前	羽部朝男 (B 88~109)
	午後	加藤正二 (B 110~123)

大谷 浩 (B 124~137)

C 会場（地下 1 階会議室）

5 月 13 日	午前	桜井 隆 (C 1~14)
	午後	平山 淳 (C 15~30)
		内田 豊 (C 31~46)
5 月 14 日	午前	小杉健郎 (C 47~67)
	午後	中野武宣 (C 68~87)
5 月 15 日	午前	福井康雄 (C 88~108)
	午後	長谷川哲夫 (C 109~122)
		観山正見 (C 123~134)

第 2 日目（5 月 14 日）午後 4 時から 30 分間ポスター発表のディスカッションが、それぞれのボードの前で活発に行われた。各会場に、ビデオ照射装置を設置していただいたため、ビデオ発表に関するトラブルは皆無であった。

◎記者会見

年会講演に先立ち、5 月 13 日（火）午後 3 時より 5 号館地下 1 階講義室で行われた。田中理事長の挨拶の後、約 2 時間に亘って主題の説明および参加した 7 報道機関からの質疑を受けた。司会は唐牛庶務理事が努めた。話題として次の 5 つを挙げた。

I] 春季年会講演より

- ① 天の川の温度を測る。（長谷川哲夫）
[CO(J=2-1) 輝線による銀河面サーベイ]
- ② 電波による新しい太陽像（鯉目信三）
[完成した電波ヘリオグラフ]
- ③ X 線による新しい太陽像（小川原嘉明）
[X 線衛星「ようこう」の成果]

II] 公開講演会より

- ① 太陽観測衛星「ようこう」（小川原嘉明）
- ② 「ようこう」軟 X 線のみた太陽（常田佐久）
[「ようこう」は何を見たか]と云う主題の下で、小川原・常田両氏を招いての講演会を、大阪府中央公会堂で開催した。日時は 5 月 15 日午後 6 時

～8時の予定であったが、なかなか鋭い質問がいくつかあり閉会は予定より30分遅れた。当夜は年会終了後の時間帯とは言え、時ならぬ豪雨に見舞われ、聴衆も160～170人となってしまったのは、折角の得難い話だけに少々残念なことであった。

なお、この講演会は、日本天文学会と大阪市立科学館の共催で開かれたもので、主催者側として田中理事長が挨拶に立ち、司会・進行は加藤賢一氏が担当した。またこれに関わる経費の相当な額を市立科学館に負担していただき大変感謝している次第である。

◎展示コーナー

賛助会員のために設けられた展示コーナーには、日本ミック、ニュートリノ、浜松ホトニクス の3社が参加し、それぞれ所期の目的を達したとのことであった。

◎「新しい天文教具」展示会とフォーラム

天文教育普及委員会との共催で開かれた催しで、年会ポスターセッションに連続した形でパネル展示をした。内容は天文現象を理解させるための、小中学生向けの天文教具の展示でユニークなアイデアがいくつかみられた。この展示への参加者は主に、各地方の公共の科学館および小・中学教諭の方々に、4～50名の来場者があった。この催しには、横尾武夫氏（大阪教育大学）が事務局代表として盡力された。

◎その他

年会会期中に、評議員会、総会、理事会が開かれた。また会員による自主研究会が第1日目に7集会、第2日目に5集会が講演発表の間隙を縫って開催された。

◎懇親会

第2日目の総会終了後、同学内11号館で懇親会が開かれた。240名の入場にも余裕のある大きな会場を無償で提供してくれた大学のご好意に大変感謝している。

開会に当って田中理事長より、「大阪学院大学からの年会補助金の支給、五島プラネタリウム、(株)

エイ・イー・エス、(株)恒星社厚生閣からの懇親会への寄付、また、この年会を開催するに当って大変ご尽力をいただいた大阪学院大学の守山教授、三上・秋田両助教授と川口教授、そして京都大学から助勢に来てくれた事務職員・アルバイト学生と引率して協力してくれた郷田理事に深く感謝する旨の挨拶があった。会は午後8時30分までと云う制限はあったが、なかなか充実した懇親会であった。

総 会 記 事

平成4年度通常総会は、5月14日午後4時30分～5時30分に吹田市・大阪学院大学地下2階の演習室（会場A）で開催された。会員150名が出席した。

議 長： 理 事 長 田中 靖郎

司会進行： 庶務理事 唐牛 宏

総会次第

1. 天体発見賞贈呈の件
2. 日本天文学会研究奨励賞贈呈の件
3. 平成3年度会務報告
4. 平成3年度会計報告及び監査報告
5. 平成4年度予算
6. 第9期評議員の決定
7. その他

◇天体発見賞贈呈の件

評議員会の議決に基づき、以下の4件4氏に天体発見賞・天体発見功労賞を贈呈する件が提案され、満場一致で承認された。

1. 串田麗樹氏 「Supernova 1991 bg」
天体発見賞
2. 石川正夫氏 「Kowal 第2周期彗星の検出
1991 fl」
天体発見功労賞
3. 佐々木俊司氏 「Supernova 1992 G」
天体発見賞

4. 田中善一氏 「Tanaka - Mchholz 彗星
1992 d」
天体発見賞

引き続き表彰式が行われ、理事長より表彰状・メダルが手渡された。

◇日本天文学会研究奨励賞贈呈の件

評議員会の議決に基づき、下記の研究に今年の研究奨励賞を贈呈する件が提案され、満場一致で承認された。

嶺重 慎氏

「降着円盤の不安定性の理論的研究」

引き続き表彰式が行われ、理事長より表彰状およびメダル・賞金の目録が手渡された。

◇平成3年度会務報告【付録1】

庶務理事より、平成3年度の会務報告があり原案通り承認された。

◇平成3年度会計報告及び監査報告【付録2】

会計理事より、平成3年度の会計報告があり、これに関して会計監査より監査の結果正常であった旨の報告があり、原案通り承認された。

◇平成4年度予算【付録3】

会計理事より、平成4年度の予算説明があり、原案通り了承された。

◇第9期評議員の決定

評議員選挙管理委員会発表の選挙結果に基づく新委員候補者名を庶務理事から提示され原案通り承認された。(天文月報5月号 p.210 参照)

◇その他

天文学会への寄付金の申し出について(特に早川基金)

理事長より寄付者の主旨についての概要報告があり、会計理事よりその受け皿を含めた具体的な説明があった。処理については実務理事に一任することとなった。

(付録1) 平成3年度 会務報告

平成3年度は、本会創立84年度、社団法人設立後58年にあたる。

本年度に行った事業

ア) 出版物の刊行

1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)

第43巻2号 177-412頁 L. 11-26

平成3年6月25日

第43巻3号 413-556頁 L. 27-36

平成3年8月25日

第43巻4号 557-660頁 L. 37-50

平成3年9月25日

第43巻5号 661-754頁 L. 51-64

平成3年11月25日

第43巻6号 755-890頁 L. 65-76

平成3年12月25日

第44巻1号 1-76頁 L. 1-14

平成4年3月25日

2) 天文月報

第84巻4号から第85巻3号まで毎月発行

イ) 年会の開催

1) 春季年会

平成3年5月14~17日

東京大学山上会館および安田講堂で開催された。参加者: 611名

講演数: 346(ポスター33, ポストデッドライン1を含む)

公開講演会: 安田講堂 参加者: 1000名

「宇宙はいかに生まれたか

(現代科学の描く創世記)」

講師: 東京大学理学部教授 佐藤勝彦

「宇宙の構造を探る

(宇宙は永遠に膨張を続けるか)」

講師: 東京大学理学部教授 岡村定矩

2) 秋季年会

平成3年10月15~18日

水戸市民会館で開催された。参加者 457名
講演数: 316(ポスター23, ポストデッドライン3を含む)

公開講演会: 常陽芸文センター

参加者 300名
 後援：水戸市教育委員会，茨城県教育委員会，常陽芸文センター
 「大気圏外からみた宇宙観測（バルサー，ブラックホール，クエーサー）」
 講師：東京大学理学部助教授 牧島一夫

総会および評議員会，理事会の開催

ア) 定期総会

平成3年5月16日 東京大学 山上会館

議長：小暮智一

議題：天体発見賞，研究奨励賞贈呈

平成2年度会務・会計報告，
 平成3年度予算，会計監査報告，
 新理事長・副理事長の選出，
 新理事の指名，各委員・会計監査の委嘱，
 新旧理事長の挨拶。

イ) 評議員会

平成3年4月19日 学士会館 本郷分館

議長：坂下志郎

議題：1. 総会提出議案について

2. 小暮智一氏退官記念事業寄付金について
3. その他

平成3年5月15日 東京大学 山上会館

議長：堀源一郎

議題：1. 総会提出議案の確認

2. その他

平成3年10月17日 水戸市民会館

議長：岡村定矩

議題：1. 顕彰制度 WG 発足について

2. 定款改訂について
3. 欧文報告の A4 化に伴う諸問題
4. その他

ウ) 理事会

平成3年5月17日 東京大学 山上会館
 会議室

平成3年8月31日 学士会館 本郷分館
 会議室

平成3年10月18日 水戸市民会館 会議室

平成4年1月18日 国立科学博物館 会議室

その他の主な事項

ア) 天体発見賞を土屋 清，新井 優，菅野 松男の3氏に，天体発見功労賞を木内鶴彦氏(2件)に授与した。(5月)

イ) 第3回日本天文学会研究奨励賞を山本 智氏に授与した。(5月)

ウ) 年会講演からトピックスを選び，報道機関に資料を提供した。(5, 10月)

エ) 平成3年度学術交流費によって95名に対して旅費補助を行った。(5, 10月)

オ) 第15期学術会議・天文学研究連絡委員会委員の選挙を行い，その結果を日本学術会議会員杉本大一郎氏に報告した。(7月)

カ) 科研費配分審査委員の選出を行い，日本学術会議に報告した。(7月)

キ) 学術用語集「天文学編 改訂版」の刊行原案を文部省に提出し，承認された。(7月)

なお発刊のための申請書等事務的な作業は3月から始まった。

ク) 小暮智一氏退官記念事業会からの寄付金は，海外学術交流活動援助金として応募者14名の中から8名を選考し，海外渡航費用を援助した。なお，事業会の意志によりこの寄付金は，当年度で全額を支出した。(7月)

ケ) 国際会議の後援，国際・国内シンポジウムの協賛・後援，および国立天文台一般公開の後援を行った。(1991.4~1992.3)

コ) 内地留学奨励金を長谷川均，荒井菊一の両氏に支給した。(9月)

サ) 顕彰制度 WG が発足した。(11月)

シ) 欧文研究報告は44巻1号(1992)から版型をA4に，天文月報は85巻1号(1992)から記

事を2色刷りにし、ともに装丁・構成を新しくした。(1月)

ス) 評議員選挙を行い、新委員(1992~1996)を選出した。(2月)

セ) 日本天文学会研究奨励賞の選考委員会を開催し(3月)、その結果を評議員会に提出した。(4月)

会員数

	特別会員	通常会員	賛助会員	合計
1991年3月31日の会員数	855	1,547	53	2,455
入会	53	77	2	132
退会	16	58	0	74
移籍(増)	5	14	0	19
移籍(減)	14	5	0	19
1992年3月31日の会員数	883	1,575	55	2,513

【付録2】 平成3年度 収支計算書

社団法人 日本天文学会

(平成3年4月1日~平成4年3月31日)

【一般会計】

1. 収入の部 (単位:円)

勘定科目	予算額	決算額
大・中・小科目		
基本財産運用収入	308,000	351,000
基本財産利息収入	308,000	351,000
会費収入	22,520,000	22,749,945
特別会員会費収入	13,280,000	13,402,950
一般会費収入	11,360,000	11,496,450
学生会費収入	1,920,000	1,906,500
通常会員会費収入	9,240,000	9,346,995
事業費収入	16,310,000	17,722,087
欧文研究報告発行事業収入	9,700,000	10,659,860
購読料	5,000,000	5,831,200
掲載料	3,400,000	3,612,080
別刷代	1,300,000	1,216,580
天文月報発行事業収入	4,800,000	5,057,929
購読料	950,000	967,458
別刷代	750,000	705,100
広告料	3,100,000	3,385,371

年会事業収入	1,810,000	2,004,298
予稿集頒布収入	310,000	352,226
参加費	1,000,000	943,420
雑収入	500,000	708,652
印税収入	2,100,000	1,082,000
星座早見印税収入	2,000,000	1,082,000
星図星表めぐり印税収入	100,000	0
補助金収入	3,500,000	3,490,000
文部省刊行補助金収入	3,500,000	3,490,000
雑収入	3,220,000	2,315,968
受取利息	120,000	130,405
特別企画収入	2,200,000	1,669,844
その他の収入	900,000	500,153
繰入金収入	0	15,566
当期収入合計(A)	47,958,000	47,711,000
前期繰越収支差額	5,349,079	5,349,079
収入合計(B)	53,307,079	53,060,079

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	予算額	決算額
大・中・小科目		
事業費	33,160,000	34,492,373
欧文研究報告発行事業費	15,230,000	16,184,409
直接出版費	10,300,000	11,098,866
別刷印刷費	900,000	722,295
人件費	980,000	971,657
謝金	600,000	530,580
委託託金	1,200,000	1,837,773
送料運搬費	900,000	865,298
消耗品費	300,000	157,940
雑費	50,000	0
天文月報発行事業費	13,030,000	12,317,584
直接出版費	8,400,000	8,012,345
別刷印刷費	650,000	414,600
人件費	980,000	972,409
謝金	1,000,000	854,125
送料運搬費	1,650,000	1,725,770
消耗品費	300,000	338,335
雑費	50,000	0
年会事業費	4,900,000	5,990,380
予稿集印刷費	2,200,000	2,763,800
謝金	400,000	564,000
送料運搬費	550,000	548,827
会場費	1,100,000	1,216,415
消耗品費	600,000	375,359
雑費	50,000	521,979

管 理 費	12,960,000	12,790,726
人件費	4,500,000	4,705,744
謝礼金	200,000	0
会議費	350,000	427,097
負担金	110,000	102,000
租税公課	1,100,000	928,227
旅費交通費	1,000,000	988,580
送料通信費	700,000	505,086
什器備品費	300,000	33,410
消耗品費	800,000	822,394
印刷製本費	200,000	238,100
光熱水料費	100,000	81,072
質借料	850,000	941,361
保険料	100,000	70,827
諸手数料	120,000	143,984
書籍購入費	130,000	76,824
特別企画費	2,300,000	2,375,000
雑費	100,000	351,020
特定預金支出	450,000	460,300
退職給与引当預金支出	150,000	160,300
減価償却引当預金支出	300,000	300,000
予備費	6,737,079	0
予備費	6,737,079	0
当期支出合計(C)	53,307,079	47,743,399
当期収支差額(D)=(A)-(C)	△5,349,079	△32,399
次期繰越収支差額(E)=(B)-(C)	0	5,316,680

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科 目	予算額	決算額
学術交流費	収入の部		
	賛助会員会費収入	2,070,000	2,130,000
	受取利息	20,000	20,000
	前期繰越収支差額	254,794	254,792
	収入合計	2,344,792	2,404,792
	支出の部		
	学術交流費	2,080,000	1,395,450
	予備費	10,000	3,605
	支出合計	2,090,000	1,399,055
	次期繰越収支差額	254,792	1,005,737
正味財産		1,005,737	

内地留学奨学金	収入の部		
	基本財産利息収入	260,000	313,075
	前期繰越収支差額	322,891	322,891
	収入合計	582,891	635,966
	支出の部		
	奨学金支出	240,000	380,000
	予備費	29,081	1,236
	支出合計	269,081	381,236
	次期繰越収支差額	313,810	254,730
	正味財産		254,730
研究奨励賞	収入の部		
	資金収入	400,000	1,502,981
	受取利息	90,000	1,370
	前期繰越収支差額	1,771,132	1,771,132
	収入合計	2,261,132	3,275,483
	支出の部		
	奨励賞支出	100,000	100,000
	予備費	10,000	4,878
	支出合計	110,000	104,878
	次期繰越収支差額	2,151,132	3,170,605
正味財産		3,170,605	
小暮智一氏退官記念 事業会からの寄付金	収入の部		
	寄付金収入	0	0
	受取利息	6,000	7,584
	前期繰越収支差額	1,011,954	1,011,954
	収入合計	1,017,954	1,019,538
	支出の部		
	研究補助支出	1,000,000	1,000,000
	予備費	17,954	3,972
	繰入金支出	0	15,566
	支出合計	1,017,954	1,019,538
次期繰越収支差額	0	0	
正味財産		0	

社団法人 日本天文学会 平成3年度 一般会計正味財産増減計算書

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

(単位：円)

勘定科目	決算額
大科目・中科目	
増加の部	
資産増加額	
退職引当預金増加額	204,642
減価償却引当預金増加額	326,694
貯蔵品増加額	1,160,114
増加額合計 (F)	1,691,450

減少の部	
資産減少額	
什器備品償却額	245,190
当期収支差額	32,399
負債増加額	
退職給与引当金繰入額	204,642
資産減少額	
減少額合計 (G)	482,231
当期正味財産増加額 (H = F - G)	1,209,219
前期正味財産 I	14,059,002
期末正味財産 合計 (H = F - G)	15,268,221

社団法人 日本天文学会

貸借対照表

平成3年度 (平成4年3月31日)

(単位：円)

【一般会計】

資産の部		負債及び正味財産の部	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
大科目・中科目		大科目・中科目	
流動資産		流動負債	
現金預金	5,160,373	未払金	2,668,399
未収会費	1,372,240	預り金	1,712,606
未収金	3,388,166	前受金	33,744
有価証券	600,000	前受会費	789,350
流動資産合計	10,520,779	流動負債合計	5,204,099
固定資産		固定負債	
投資有価証券	5,000,000	退職給与引当金	871,659
その他の固定資産		負債合計	6,075,758
什器備品	1,299,293	正味財産	15,268,221
貯蔵品	2,929,480	(うち、基本金)	(5,000,000)
退職給与引当預金	871,659	(うち、当期増加額)	(1,209,219)
減価償却引当預金	722,768	正味財産合計	15,268,221
固定資産合計	10,823,200	負債及び正味財産合計	21,343,979
資産合計	21,343,979		

【特別会計】

(単位：円)

学 術 交 流 費			
流動資産		正味財産	
現金預金	1,005,737	次期繰越収支差額	1,005,737
		(うち当期増加額)	(750,945)
資産合計	1,005,737	正味財産合計	1,005,737
		負債及び正味財産合計	1,005,737

内地留学奨学金					
流動資産			正味財産		
現金預金	254,730		基本金	4,310,000	
流動資産合計		254,730	次期繰越収支差額 (うち当期減少額)	254,730 (68,161)	
その他の固定資産					
投資有価証券	4,310,000				
その他の固定資産合計		4,310,000	正味財産合計		4,564,730
資産合計		4,564,730	負債及び正味財産合計		4,564,730
研究奨励費					
流動資産			正味資産		
現金預金	3,170,605		次期繰越収支差額 (うち当期増加額)	3,170,605 (1,399,473)	
			正味財産合計		3,170,605
資産合計		3,170,605	負債及び正味財産合計		3,170,605

(注) 基本財産(基本金)たる資産:投資有価証券 9,310,000円
 預り金のうち消費税 1,647,494円 (うち当期消費税 452,078円)
 監査の結果、収支計算書及び貸借対照表の正しいことを証明します。

平成4年4月17日 会計監査 中野武宣 印
 田原博人 印

【付録3】平成4年度収支予算書

平成4年4月1日～平成5年3月31日

【一般会計】

I] 収入の部

単位:円

勘定科目	予算額	前年度 予算額
大・中・小科目		
基本財産運用収入	300,000	308,000
基本財産利息収入	300,000	308,000
会費収入	23,330,000	22,520,000
特別会員会費収入	13,730,000	13,280,000
一般会費収入	11,730,000	11,360,000
学生会費収入	2,000,000	1,920,000
通常会員会費収入	9,600,000	9,240,000
事業収入	17,800,000	16,310,000
欧文研究報告発行事業収入	9,800,000	9,700,000
購読料	5,000,000	5,000,000
掲載料	3,600,000	3,400,000
別刷代	1,200,000	1,300,000
天文月報発行事業収入	5,050,000	4,800,000
購読料	950,000	950,000
別刷代	700,000	750,000
広告料	3,400,000	3,100,000
年会事業収入	2,950,000	1,810,000
予稿集頒布収入	450,000	310,000

参加費	2,000,000	1,000,000
雑収入	500,000	500,000
印税収入	1,300,000	2,100,000
星座早見印税収入	1,200,000	2,000,000
その他の印税収入	100,000	100,000
補助金収入	3,500,000	3,500,000
文部省刊行補助金収入	3,500,000	3,500,000
雑収入	2,360,000	3,220,000
受取利息	60,000	120,000
特別企画収入	1,350,000	2,200,000
その他の収入	950,000	900,000
当期収入合計(A)	48,590,000	47,958,000
前期繰越収支差額	5,316,680	5,349,079
収入合計(B)	53,906,680	53,307,079

II] 支出の部

単位:円

勘定科目	予算額	前年度 予算額
大・中・小科目		
事業費	38,180,000	33,160,000
欧文研究報告発行事業費	16,050,000	15,230,000
直接出版費	11,100,000	10,300,000
別刷印刷費	720,000	900,000
人件費	980,000	980,000
謝金	600,000	600,000
委託金	1,600,000	1,200,000
送料運搬費	900,000	900,000

消耗品費	100,000	300,000
雑費	50,000	50,000
天文月報発行事業費	16,330,000	13,030,000
直接出版費	11,500,000	8,400,000
別刷印刷費	450,000	650,000
人件費	980,000	980,000
謝礼金	1,050,000	1,000,000
送料運搬費	1,800,000	1,650,000
消耗品費	500,000	300,000
雑費	50,000	50,000
年会事業費	5,800,000	4,900,000
予稿集印刷費	3,000,000	2,200,000
謝礼金	600,000	400,000
送料運搬費	550,000	550,000
会場費	150,000	1,100,000
消耗品費	800,000	600,000
雑費	700,000	50,000
管理費	11,950,000	12,960,000
人件費	4,800,000	4,500,000
謝礼金	100,000	200,000
会議費	450,000	350,000
負担金	100,000	110,000
租税公課	950,000	1,100,000
旅費交通費	1,000,000	1,000,000
送料通信費	550,000	700,000
什器備品費	50,000	300,000
消耗品費	800,000	800,000
印刷製本費	1,250,000	200,000
光熱水料費	80,000	100,000
賃借料	950,000	850,000
保険料	70,000	100,000
諸手数料	150,000	120,000
書籍購入費	100,000	130,000
特別企画費	50,000	2,300,000
雑費	500,000	100,000
特定預金支出	460,000	450,000
退職給与引当預金支出	160,000	150,000
減価償却引当預金支出	300,000	300,000
予備費	3,316,680	6,737,079
予備費	3,316,680	6,737,079
当期支出合計 (C)	53,906,680	53,307,079
当期収支差額 (A)-(C)	△5,316,680	△5,349,079
次期繰越収支差額 (B)-(C)	0	0

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額
	収入の部		
学術交流費	賛助会員会費収入	2,100,000	2,070,000
	受取利息	16,000	20,000
	前期繰越収支差額	1,005,737	254,792
	収入合計	3,121,737	2,344,792
	支出の部		
	学術交流費	2,350,000	2,080,000
予備費	10,000	10,000	
支出合計	2,360,000	2,090,000	
次期繰越収支差額	761,737	254,792	
	収入の部		
内地留学奨学金	基本財産利息収入	210,000	260,000
	前期繰越収支差額	254,730	322,891
	収入合計	464,730	582,891
	支出の部		
	奨学金支出	240,000	240,000
	予備費	20,000	29,081
支出合計	260,000	269,081	
次期繰越収支差額	204,730	313,810	
	収入の部		
研究奨励賞	資金収入	1,300,000	400,000
	受取利息	140,000	90,000
	前期繰越収支差額	3,170,605	1,771,132
	収入合計	4,610,605	2,261,132
	支出の部		
	奨励賞支出	100,000	100,000
予備費	10,000	10,000	
支出合計	110,000	110,000	
次期繰越収支差額	4,500,605	2,151,132	
	収入の部		
早川幸男基金(若手海外学術研究援助基金)	寄付金収入	7,700,000	0
	前期繰越収支差額	0	
	収入合計	7,700,000	0
	支出の部		
	補助金支出	1,000,000	0
	支出合計	1,000,000	0
次期繰越収支差額	6,700,000	0	

秋季年会の開催と講演の申込について

秋季年会は、名古屋大学構内豊田講堂（〒464 名古屋市千種区不老町）において**10月13日(火)**から**10月15日(木)**の3日間開催の予定です。講演発表は3会場同時に行われます。秋季年会のプログラムは9月20日発行の天文月報10月号に掲載されます。

講演申込みは「〒181 東京都三鷹市大沢2-21-2 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上**8月22日(土)**までに必着するよう規定の申込用紙を用いてお送り下さい。

ポスターセッションを設けます。このポスターセッションについてはディスカッションの時間を設ける予定です。

又、post-deadline papersも受け付けます。勿論これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circulerに掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、年会前(10月9日)まで受け付けたいと思います(FAXでもよい)。

なお、講演申込み用紙の分野の分類(用紙の裏面にあり)に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例:恒星(内部振動)のように)。

講演申込の際、「口頭発表」あるいは「ポスター発表」の講演形式を必ず指定して下さい。講演形式あるいは「口頭発表の分野分類」については、ご希望に沿ったプログラム編成をいたします。ただし、申込数・日程等の関係で、お申込み通りにならない場合もありますのであらかじめご了承下さい。

申込み用紙は、支部理事にまとめて送ってありますので希望者は返信料62円切手を同封し、封筒の表に「申込用紙請求」と朱書の上、下記の理事へお申出下さい。

北海道:馬場直志 〒060 札幌市北十条西八

丁目 北海道大学工学部応用物理
東北:亀谷 收 〒023 岩手県水沢市星ヶ丘町 国立天文台水沢観測センター
関東:唐牛 宏 〒181 三鷹市大沢2-21-2 国立天文台内 日本天文学会
中部:国枝秀世 〒464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部物理学教室
関西:郷田直輝 〒560 大阪府豊中市待兼山町 大阪大学理学部宇宙地球科学科
中国・四国:田辺健茲 〒700 岡山市理大町1-1 岡山理科大学教養部
九州:平井正則 〒811-41 福岡県宗像市赤間729 福岡教育大学地学教室

◇講演申込者で、年会出席旅費の補助を希望される会員は、支部理事を通じて、8月22日(土)までに必着するよう「国立天文台内 日本天文学会理事長」あてに申し込んで下さい。但し申込みのできる人は、**7月末日までに1992年度会費納入済みの人**で、原則として、連名の場合でもスピーカーであり、正式の給与を受けていない人(大学院生など)に限ります。

◇講演申込み・発表に関しては、特に次の事項を厳守して下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合スピーカーを発表者の筆頭に書くこと。
3. 講演筆頭者はポスター発表を含め1人1回に限る。
4. ビラは使用禁止、スライドまたはオーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
5. ビデオプロジェクターの使用を希望される方は年会申込期限までに連絡してください。その後の申し込みには対応できないこともあります。

◇旅館については各自で直接申し込んで下さい。
◇年会中に集会等のため、会議室の利用を希望される方は、前もって、支部理事(国枝秀世 052-781-5111)までご連絡下さい。可能な限り手配し

たいと思います。

日本天文学会公開講演会

年会開催を機に、公開講演会を行います。

公開講演会題目：星誕生の謎を探る

—電波で見る分子雲と原始星—

講師 福井康雄（名古屋大学理学部助教授）

—光と赤外線で見える星の生成と進化—

講師 佐藤修二（国立天文台助教授）

期日：1992年10月13日（火） 午後6時～

対象：中学生以上の一般市民

会場：名古屋市科学館（予定）

内地留学奨励金の希望者を募集します。

応募される会員は、下記要項をご参照の上お申し込み下さい。

留学期間：1992年11月から約1年間の中の希望期間。

申し込み：所定用紙に必要事項を記入し、「〒181 三鷹市大沢2-21-2 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に申し込んで下さい。（用紙は日本天文学会事務局に用意してあります）

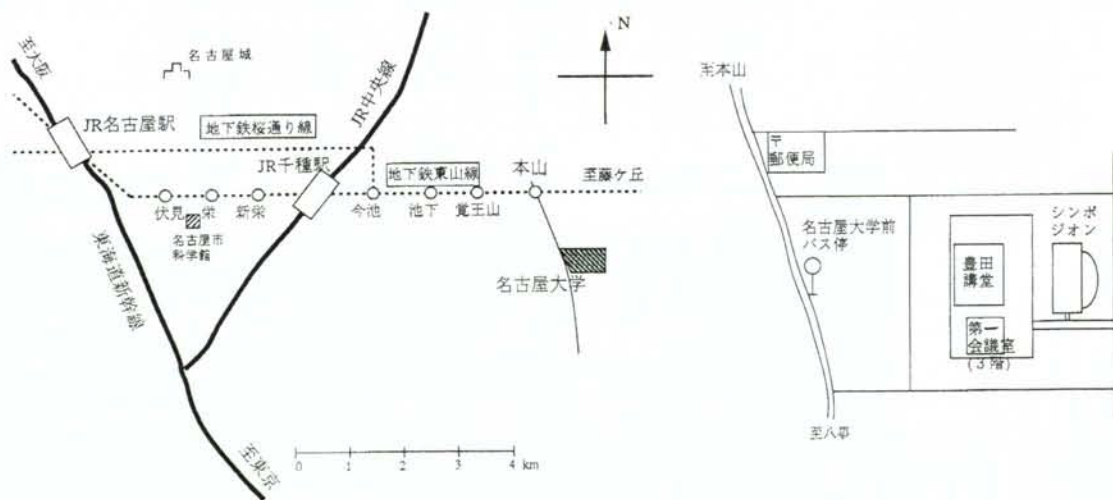
申し込み締切：1992年9月20日

審査：当学会選考委員会（内規第5条）で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

支給額：25万円以下で、支給予定は11月～12月とします。

人数：原則として1人。新人を歓迎します。

1992年秋季年会会場案内図



JR名古屋駅下車
 地下鉄東山線藤ヶ丘方面乗り換え
 本山駅下車
 進行方向むかって右(南)へ
 徒歩15分、バス5分名大前下車
 左手山の上に豊田講堂ほか

A会場：豊田講堂
 B会場：第一会議室
 C会場：シンポジオン
 懇親会会場：シンポジオン

秋季年会宿舎一覧

#	宿 舎 名	電話(052)	料金(円)	#	宿 舎 名	電話(052)	料金(円)
1	名古屋ターミナルホテル	561-3751	9630	7	第一ワシントンホテル	951-2111	8157
2	名古屋第一ホテル	581-4411	9630	7	第二ワシントンホテル	962-7111	6571
3	三の丸会館(公)	201-3326	8200	9	愛知会館(私)	936-5171	5438
4	丸の内東急イン	202-0109	8200	10	名古屋弥生会館	732-0841	5098
5	栄東急イン	251-0109	9300	11	厚生年金会館	761-4181	5438
6	名古屋国際ホテル	961-3111	9500	12	東山荘	781-1270	5700

(注) 1, 2 は名古屋駅付近, 3, 4 は名古屋城付近, 5-8 は栄, 9-12 地下鉄東山線沿線。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さいませようお願いいたします。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)。

国立天文台地球回転分野教官公募

1. 助手 1 名
2. (1) 地球回転研究分野
(2) 岩手県水沢市
3. VLBI 位置計測
4. 地球回転系・水沢観測センターでは 10 m アンテナを整備中で今秋には、地球回転、位置天文、メーザ電波源等の VLBI 観測を開始する予定です。また月面に投下する VLBI 用電波源の開発を進め、更に超高精度 VLBI システムを目指した VERA 計画を推進する等、電波位置天文学、観測技術の開発・研究を進めており、これらを精力的に遂行する研究者

を希望します。

5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の能力を有するもの
7. ①履歴書 ②研究歴 ③研究論文リスト及び主要論文別刷 ④研究計画 ⑤本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先
8. 平成 4 年 9 月 1 日(火)必着
9. (1) 〒181 三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 国立天文台地球回転研究系 笹尾哲夫
(TEL 0197-22-7127
FAX 0197-22-7120)
10. 封筒の表に「地球回転分野人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。
11. 選考は国立天文台運営協議員会において行います。

国立天文台電波天文学分野教官公募

1. 助手 1 名
2. (1) 野辺山宇宙電波観測所
3. 電波天文学
4. 野辺山では 45 m 電波望遠鏡、ミリ波干渉計などの観測装置による星間分子、星形成領域、星、銀河などの観測的研究および新しい可能

性を切り拓くための装置開発を行なってきています。また、大型ミリ波アレイ計画、サブミリ波天文学、VSOPをはじめとするスペースからの電波天文観測の開拓などいくつかの将来計画を進めつつあり、共同利用の運営サポートも含めこれらを積極的に担う人を希望します。

5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. ①履歴書 ②研究歴 ③研究論文リスト及び主要論文別刷（共著の場合はその役割分担）④自薦の場合は研究計画と本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先 ⑤他薦の場合は研究計画が分かる推薦書（必要に応じ、被推薦者に資料を請求することがあります。）
8. 1992年9月18日(金)必着
9. (1) 〒181 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 〒384-13 長野県南佐久郡南牧村野辺山
国立天文台野辺山 石黒正人
(TEL 0267-63-4396)
10. 封筒に「電波天文学応募書類」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。
11. 選考は、国立天文台運営協議委員会において行います。

国立天文台赤外線天文学分野（大型光学赤外線望遠鏡計画推進部）教官公募

1. 2名（教授または助教授1名、および助教授または助手1名）
2. (1) 大型光学赤外線望遠鏡計画推進部
(2) 当面三鷹、将来ハワイ勤務の可能性が ある
3. 大型光学赤外線望遠鏡（すばる）計画の推進及び関連する研究・開発。光学赤外線天文学分野では、すばる望遠鏡の建設が進みはじめ、

最高性能の観測システムの実現に向けて多様な開発研究を進めています。平成4年度新設の大型光学赤外線望遠鏡計画推進部のメンバーとして、天文学の広い視野と見通しに立ってすばる計画に専念し、望遠鏡・観測装置・計算機システム・ソフトウェア等の分野において新しい可能性を積極的に切り拓いてゆく研究者を求めます。

5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. ①履歴書 ②研究歴（これまでの研究内容の概要を含む） ③研究論文リスト及び主要論文の別刷 ④自薦の場合は着任後希望する研究計画および本人について参考意見を述べることのできる人2名の氏名・連絡先 ⑥他薦の場合は研究計画も分かる内容の推薦書 ⑦応募または推薦する職（教授、助教授、助手の別）を明記のこと。
8. 平成4年8月31日(月)必着
9. (1) 〒181 三鷹市大沢2-21-1
国立天文台 台長 古在由秀
(2) 国立天文台光学赤外線天文学研究系
海部宣男
Tel: 0422-34-3610
Fax: 0422-34-3608
10. 応募書類封筒の表に「光学赤外線天文学分野応募書類在中」と朱記し、簡易書留にてお送りください。
11. (1) 選考は、国立天文台運営協議委員会において行います。
(2) 外国国籍の方の場合、法規に基づいて任期をつけることがありますので、あらかじめご連絡くださるようお願いいたします。

人事公募結果

九州大学教養部物理教室教務員

1. 公募掲載：1992年3月号
2. 氏名：山岡 均
3. 前所属：東京大学理学系研究科天文学専攻
博士課程
4. 着任時期：平成4年5月16日

問合先：〒169-50 東京都新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学理工学部物理学科

並木美喜雄

TEL 03-3203-4141 内線 73-3660

FAX 03-3200-2567

e-mail namiki @jpnwas00. bitnet

maeda@wucc. waseda. ac. jp

トラベルファンドについて

(笹川日仏財団研究旅費助成)

笹川日仏財団より研究旅費の助成案内が天文学会に届けられました。

対象①フランスに関連する分野で、博士課程履修中あるいは終了後学究生活にある45歳以下の日本人

- ②日本の大学・研究期間が主催するセミナー・講演に招聘しようとするフランス人研究者

助成金額：850,000円

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

笹川日仏財団東京事務局 担当：岸上

住所：東京都港区三田 3-12-12 笹川記念館6F

TEL：03-3769-2092

FAX：03-3769-2090

国際シンポジウム「量子物理学と宇宙」

開催のお知らせ

以下の予定で表記国際シンポジウムを開催いたします。ふるってご参加ください。

日程：1992年8月19日(水)～8月22日(土)

19日18時～20時 歓迎パーティー

20日9時～22日16時 講演

会場：早稲田大学国際会議場

〒169-50 東京都新宿区西早稲田1-6-1

参加費：20,000円(学生10,000円)

1992年度「朝日賞」候補者推薦について

朝日新聞社より本会あてに受賞候補者の推薦依頼がきております。特に要項はありませんが、フレッシュな候補者を歓迎しております。

天文学会では締切に間に合わせるために8月中に候補者を選定する予定ですので、是非と思われる方がおられましたら、日本天文学会までご連絡下さい。

平成3年度(第8回)井上學術賞候補者募集について

井上科学振興財団より本会あて下記要項で推薦依頼がありました。希望者は庶務理事までご連絡下さい。

(学会締切は9月5日(土))

1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で業績が特に顕著なもの、ただし、研究者の年齢が平成4年9月20日現在で満50歳未満のものに限る。

2. 賞

賞状及び副賞200万円、受賞者は原則として1件について一人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示して下さい。

3. 学会からの推薦件数は1件です。

4. 贈呈期日は平成5年2月4日(木)の予定。